

小国町人口ビジョン

令和7年10月改訂
山形県小国町

目次

| | |
|-----------------------------------|----|
| 1. はじめに..... | 1 |
| (1) 小国町人口ビジョンの改訂について..... | 1 |
| (2) 人口の将来展望の基本的考え方..... | 1 |
| (3) 人口ビジョンの振り返り..... | 2 |
| 2. 小国町の人口動向分析..... | 4 |
| (1) 人口動態に関する現状..... | 4 |
| (2) 人口移動に関する現状..... | 12 |
| (3) 町民意識調査..... | 14 |
| (4) 将来人口の推計..... | 18 |
| (5) 将来人口に及ぼす自然増減と社会増減の影響度の分析..... | 19 |
| 3. 人口の将来展望..... | 20 |
| (1) 小国町としての考え方..... | 20 |
| (2) 人口減少の抑制に向けた目標..... | 22 |
| (3) 将来人口の展望..... | 23 |
| (4) 「協働人口」の拡大と今後のまちづくりの方向..... | 25 |

1. はじめに

(1) 小国町人口ビジョンの改訂について

町では、平成27(2015)年に「小国町人口ビジョン(以下、「現行ビジョン」という。)」を策定し、国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」や総合戦略の趣旨を踏まえながら、人口減少と少子高齢化に対応するための取組みを進めてきました。その後、令和2(2020)年には、社会情勢や町の状況変化を踏まえて改訂を行い、基礎自治体としての持続可能性を確保するための人口展望を示してきました。

しかし、全国的な人口減少と高齢化は依然として進行しており、本町においても前回の人口ビジョンで示した令和2(2020)年時点の想定人口を下回る結果となっています。このような現状を踏まえ、令和2(2020)年に策定された国の第2期総合戦略(2020改訂版)や「まち・ひと・しごと創生基本方針2021」の趣旨、さらに第1期総合戦略策定以降の社会経済情勢の変化等を考慮しつつ、改めて本町の人口の現状と将来展望を提示するものです。

今回の小国町人口ビジョン(改訂版)(以下、「改訂版ビジョン」という。))は、町の将来像を町民と共有し、人口減少問題に対する理解と共通認識を深めるとともに、地域が持続的に発展していくための方向性を明らかにすることを目的としています。

(2) 人口の将来展望の基本的考え方

国は長期ビジョンにおいて令和42(2060)年に総人口1億人規模の確保を掲げましたが、現在の「地方創生2.0」では、地域の魅力や資源を最大限に活かし、多様な関係人口や協働人口を創出しながら持続可能な地域社会を築くことが重視されています。基礎自治体である市町村には、人口構造の変化を踏まえ、将来像から逆算した対策を戦略的に展開することが求められています。

本町の現行ビジョンは平成27(2015)年に策定、令和2(2020)年に改訂しました。小規模自治体である本町では、出生数や若年層の動向が人口全体に大きな影響を及ぼし、社会経済情勢や国・県の施策によって転出入の状況も大きく左右されます。そのため、長期的な見通しには不確実性が伴うことから、現行ビジョンでは令和22(2040)年までを目標年次として整理しています。

改訂版ビジョンにおいても、国立社会保障・人口問題研究所の推計を参考に、近年の人口動向を踏まえつつ令和22(2040)年を目標年次とした将来人口を提示します。その際、第5次小国町総合計画の施策展開や「まち・ひと・しごと創生」の取組効果を反映させ、自然増減(出生・死亡)の見通しと社会増減(転入・転出)の改善を組み合わせた現実的な推計を行います。

この基本的な考え方に基づき、小国町では人口減少のスピードをできる限り抑制し、将来にわたって活力ある地域社会を維持していくことを目指します。

(3) 人口ビジョンの振り返り

①人口ビジョン（平成27年10月策定版）

平成27年10月に策定した人口ビジョンでは、①雇用の場の創出による人口流出の抑制、②田園回帰の受け皿、③出産・子育て環境のさらなる向上、④協働と連携と交流による新たな支えあいの仕組みづくりという4つの視点のもと、下記のような人口展望を掲げました。

■人口推計と人口の将来展望

| 出生に関する推計（自然動態の見込み） | 移動に関する推計（社会動態の見込み） |
|---|--|
| 将来人口推計における合計特殊出生率について、2015→2020年は過去6年間の平均値である1.88を、2020年以降は2.0を、2040年までには人口置換水準2.07を達成するものと推計 | 人口流出に歯止めをかけ、社会減の縮小を図ることで、2020年には若い世代を中心に純移動率の向上が図られるものと見込まれることから、2020年以降においてもその純移動率を各世代において維持するものとして推計 |

| | |
|---------|------------------------------------|
| 人口の将来展望 | 2040年に人口6,220人と推計 ※当時の社人研推計は5,117人 |
|---------|------------------------------------|

②人口ビジョン（令和2年3月改訂版）

平成27年10月に策定した人口ビジョン（具体的な取り組みは総合戦略）の状況を踏まえつつ、様々な社会情勢等の変化に対応するために、最新の動向を鑑みた人口ビジョンの改訂を令和2年3月に行いました。そこでは、①基礎自治体としての役割を果たすために必要な人口規模の維持、②雇用の場の創出による人口流出の抑制、③田園回帰の受け皿、④出産・子育て環境のさらなる向上、⑤協働と連携と交流による新たな地域運営の仕組みづくり、⑥白い森まるごとブランド構想の推進という6つの視点のもと、下記のような人口展望を掲げました。

■人口推計と人口の将来展望

| 出生に関する推計 （自然動態の見込み） | 移動に関する推計 （社会動態の見込み） |
|---|--|
| 将来人口推計における合計特殊出生率について、2020→2025年は過去6年間の平均値である1.80を維持し、2025→2030年は1.90を確実に達成し、以降2040年までに段階的に2.0にまで引き上げ、2045年までには人口置換水準2.07を達成するものと推計 | 人口流出に歯止めをかけ、社会減の縮小を図ることで、2025年には若い世代を中心に純移動率の向上が図られるものと見込まれることから、2025年以降においてもその純移動率を各世代において維持するものとして推計 |

| | |
|---------|------------------------------------|
| 人口の将来展望 | 2040年に人口6,094人と推計 ※当時の社人研推計は3,841人 |
|---------|------------------------------------|

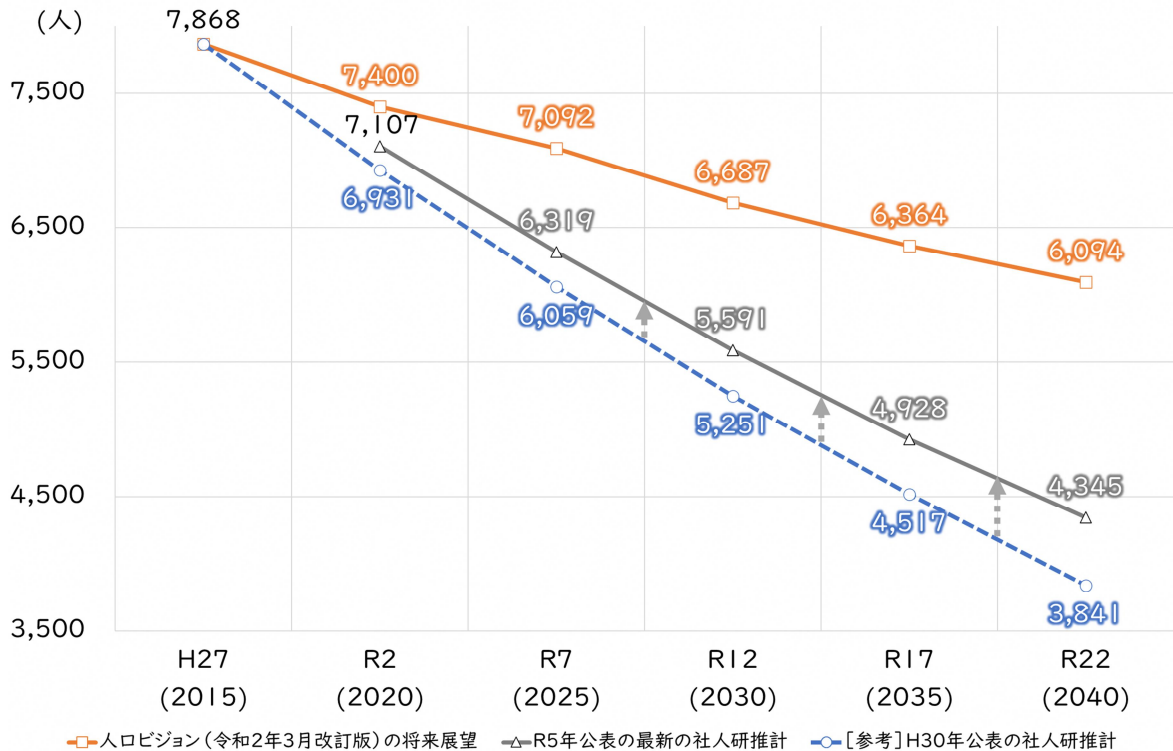
③これまでの人口ビジョンの振り返り

下記で示すグラフは、人口ビジョン（令和2年3月改訂版）における将来展望（以下「現行ビジョン」といいます。）、令和5（2023）年に公表された最新の社人研推計値（以下「最新の推計値」といいます。）、平成30（2018）年に公表された社人研推計値（以下「過去の推計値」といいます。）を示しています。

過去の推計値（青色の線）と最新の推計値（灰色の線）を比較すると、全体的にやや上振れしていることがわかります。社人研の推計値は、過去の国勢調査の結果を踏まえた推計値となっていることから、合計特殊出生率や転入・転出の状況等が改善されているためと推測できます。

また、最新の推計値で示している7,107人は、令和2（2020）年に実施された国勢調査の結果です。現行ビジョンよりはやや下回っていますが、過去の推計値よりは高い数値となっており、人口減少の抑制が進んでいるといえます。

■現行ビジョン等の推計値の比較



*現行の人口ビジョン（令和2年3月改訂版）では、定住人口に加え、町外からの通勤者もまちづくりに関わる協働人口として推計に含んでいる。

2. 小国町の人口動向分析

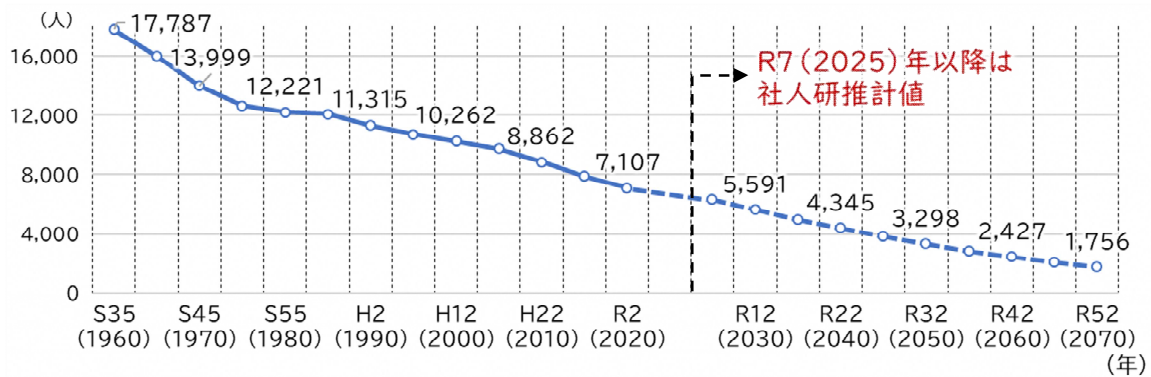
(1) 人口動態に関する現状

① 本町の総人口及び年齢3区分別人口等の推移

令和2(2020)年における本町の総人口は7,107人となっており、一貫して減少し続けています。将来人口の推計では、令和22(2040)年には4,345人、令和32(2050)年には3,298人と、令和2(2020)年の総人口の半分以上にまで減少すると推計されています。

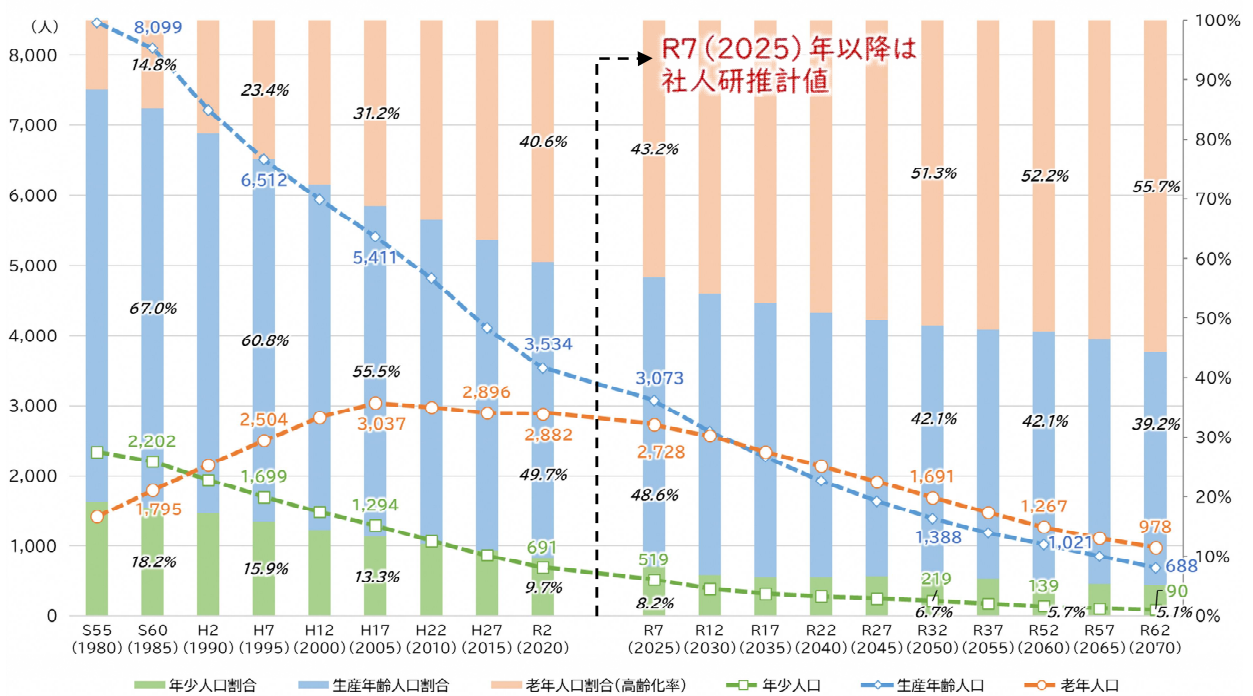
また、令和2(2020)年における本町の高齢化率は40.6%であり、年々上昇し続けると推計されています。令和32(2050)年には高齢化率が51.3%と、半数以上の町民が65歳以上になると推計されています。

■ 本町の総人口の推移



出典：国勢調査・社人研資料

■ 本町の人口及び年齢3区分別人口の推移

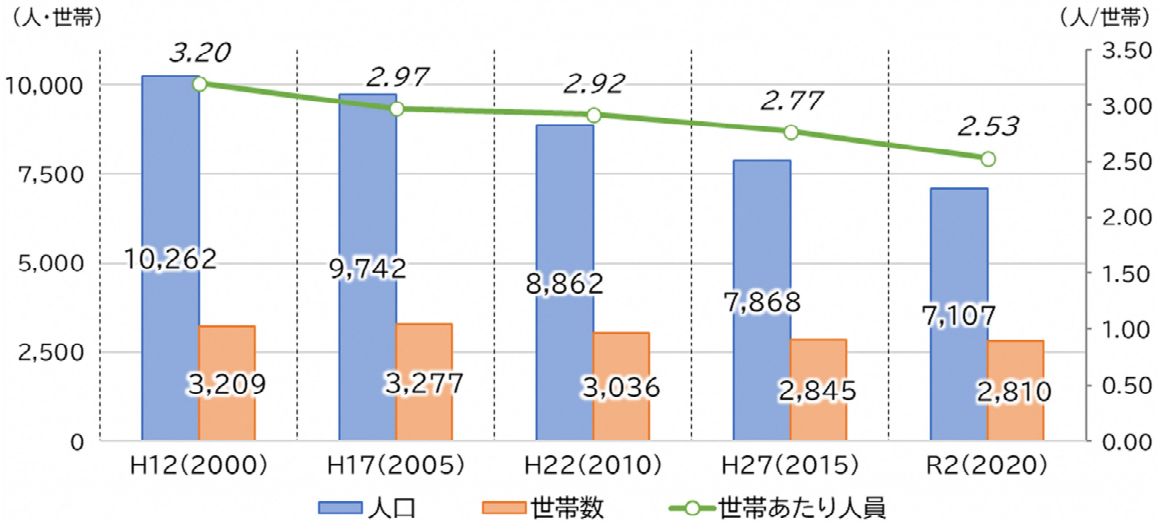


出典：国勢調査・社人研資料

②人口と世帯数の推移

本町の人口・世帯数は減少傾向にあります。世帯数を平成12(2000)年と令和2(2020)年で比較すると、約12%減少しておりますが、人口は約30%減少しているため、世帯人員も減少しています。

■人口・世帯数の推移

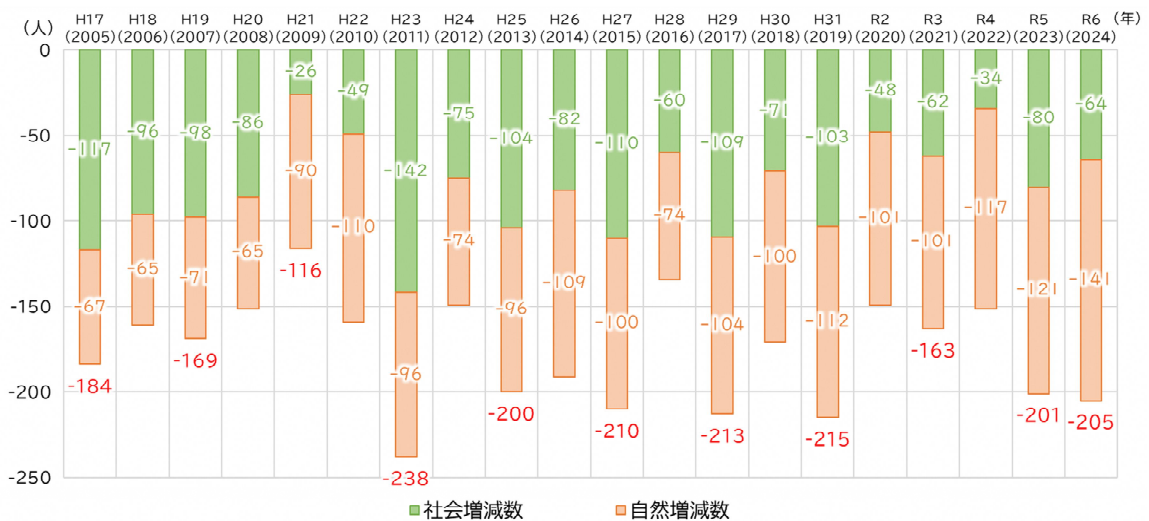


出典：小国町「数字で見る小国町」

③自然増減・社会増減の推移

本町の人口動態は、自然減少・社会減少が一貫して続いています。社会増減数は、近年でも100人を超過する年も見受けられましたが、令和6(2024)年は64人とやや減少傾向にあります。自然減少は、増加傾向にあり、令和6(2024)年は141人となっています。

■自然増減・社会増減の推移

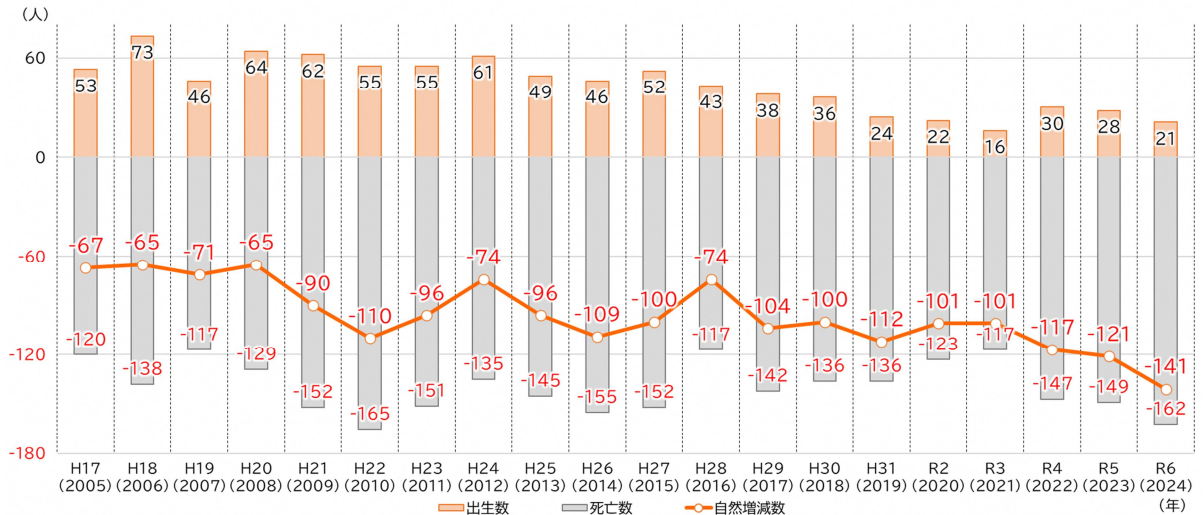


出典：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」

④自然増減（出生数と死亡者数）の推移

本町の自然増減は、出生数が死亡者数を下回る自然減の状態にあります。出生数は平成17（2005）年は53人となっており、その後も概ね約50人程度で推移していましたが、近年は20人程度の状況が続いています。

■自然増減の推移

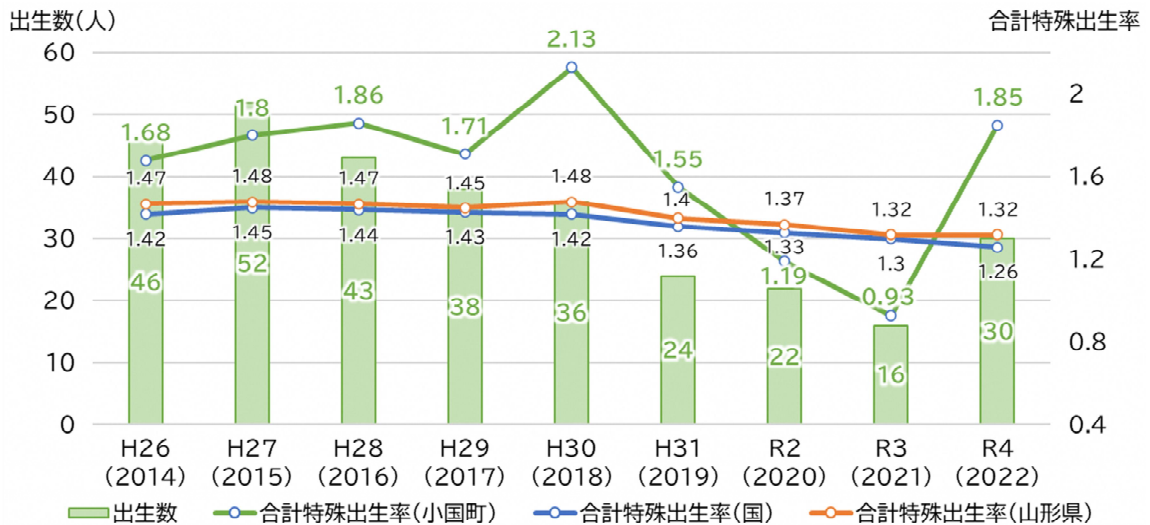


出典：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」

⑤本町の合計特殊出生率の推移

1人の女性が一生に産む子どもの平均数である合計特殊出生率の推移をみると、令和2（2020）年及び令和3（2021）年を除く全ての年で、国及び山形県の水準を大きく上回っています。人口規模が長期的に維持される水準（=人口置換水準といい、現在は2.07）を超過している年もあります。

■合計特殊出生率の推移

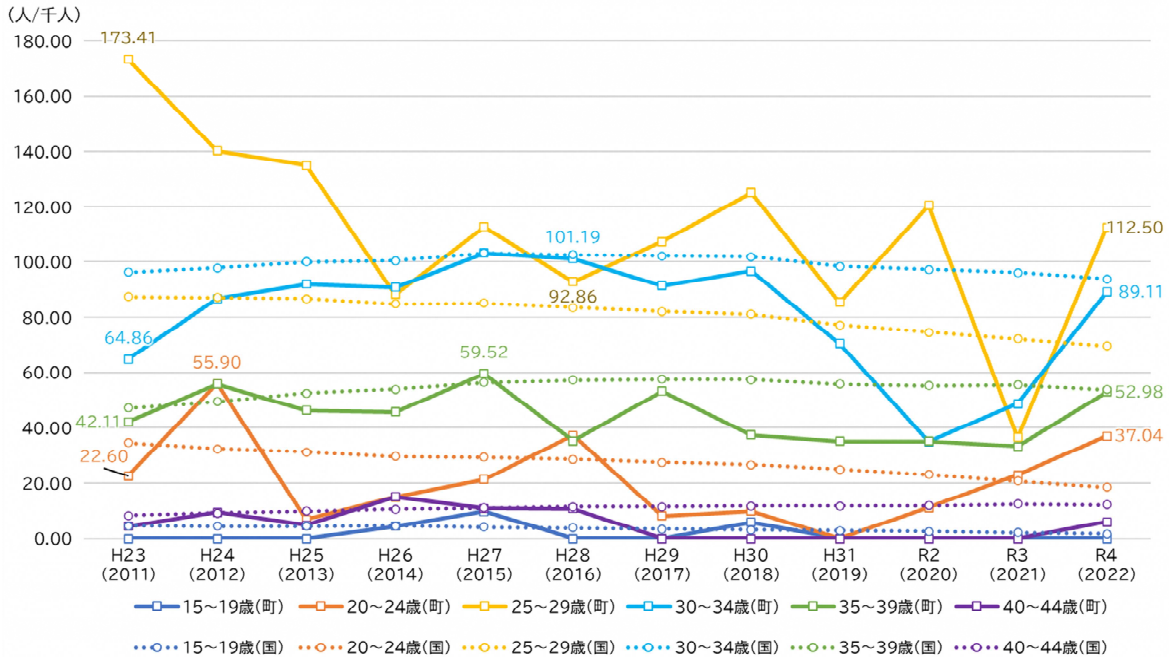


出典：山形県「人口動態統計」及び小国町資料

⑥母の年齢（年齢階級）別出生率（女性人口千人対）

母の年齢階級別出生率は、年齢階級別の出生力を把握するための指標です。本町においては、年齢層及び年によるばらつきがみられますが、「35～39歳」は比較的安定している状況にあります。出生率の高い年齢層である「25～29歳」と「30～34歳」は、年により増加減少を繰り返しています。

■母の年齢（年齢階級）別出生率（女性人口千人対）の推移（国との比較）

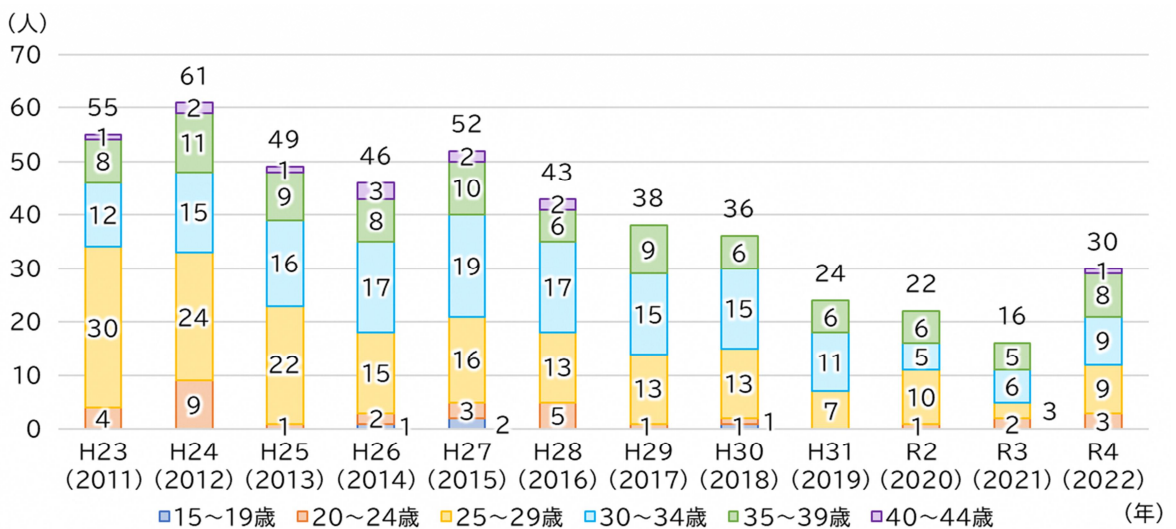


出典：山形県「人口動態統計」より作成

⑦母の年齢別出生数及び出生割合の推移

母の年齢別出生数の推移をみると、25～34歳の年齢層で出産するケースが最も多くなっています。また、「35～39歳」の年齢層はほぼ同様の水準で推移しています。

■出生数及び母の年齢別出生数の推移

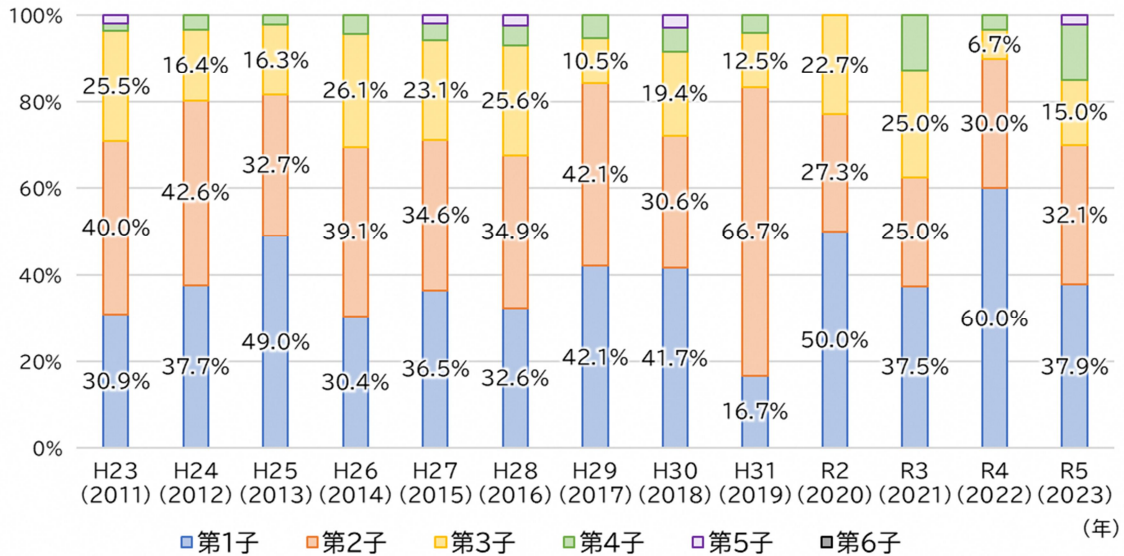


出典：山形県「人口動態統計」

⑧ 出生順位別出生数の推移

出生順位別出生数の推移をみると、概ね4割程度は第1子となっており、年によってばらつきはありますが、第2子も概ね4割程度となっています。

■ 出生順位別出生数の推移

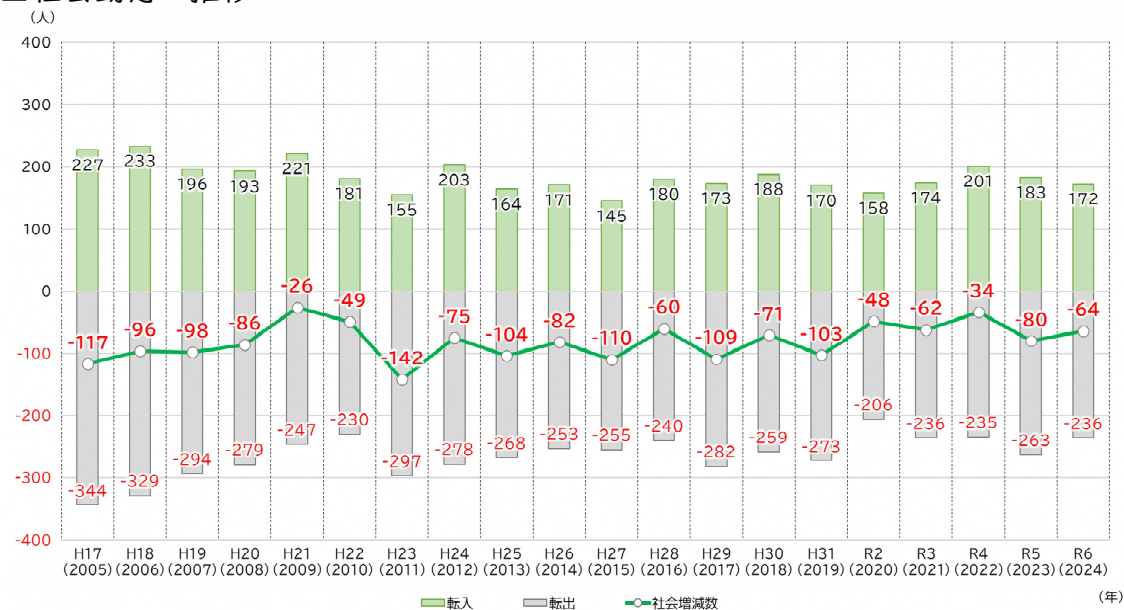


出典：山形県「人口動態統計」

⑨ 社会増減（転入者数と転出者数）の推移

本町の社会増減は、転入者数が転出者数を下回る社会減の状態にあります。転入者数・転出者数の推移をみると、ともにやや減少傾向にあり、転入者数は概ね190人前後で、転出者数が200人を超過する水準で推移しています。

■ 社会動態の推移

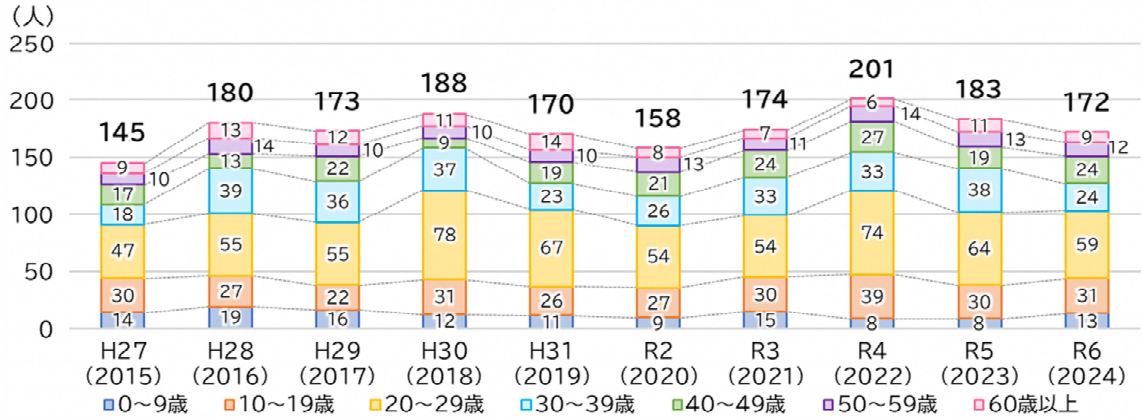


出典：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」

⑩社会増減（転入者数）の年代別・男女別の推移

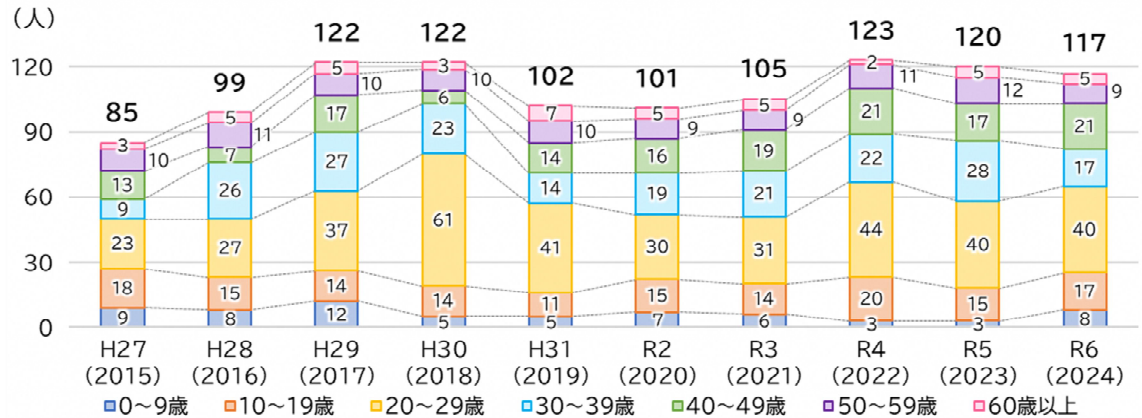
転入者の年代別・男女別の推移をみると、男性は「20～29歳」がやや増加傾向にあります。女性はほぼ同様の傾向で推移しています。

■転入者数の推移（総数）



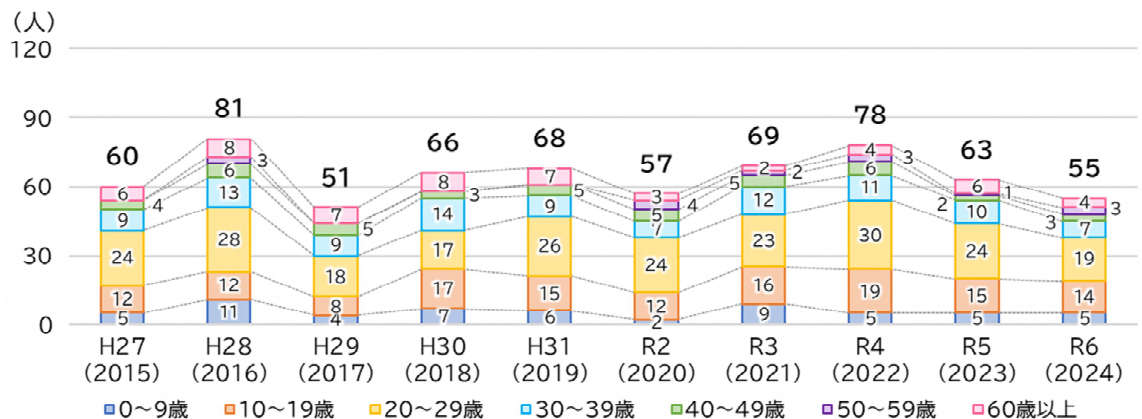
出典：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」

■転入者数の推移（男性）



出典：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」

■転入者数の推移（女性）

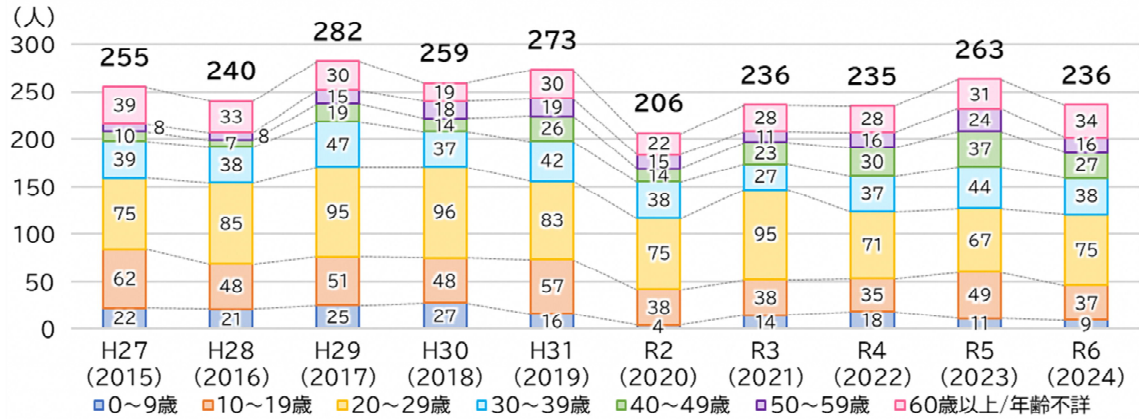


出典：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」

①社会増減（転出者数）の年代別・男女別の推移

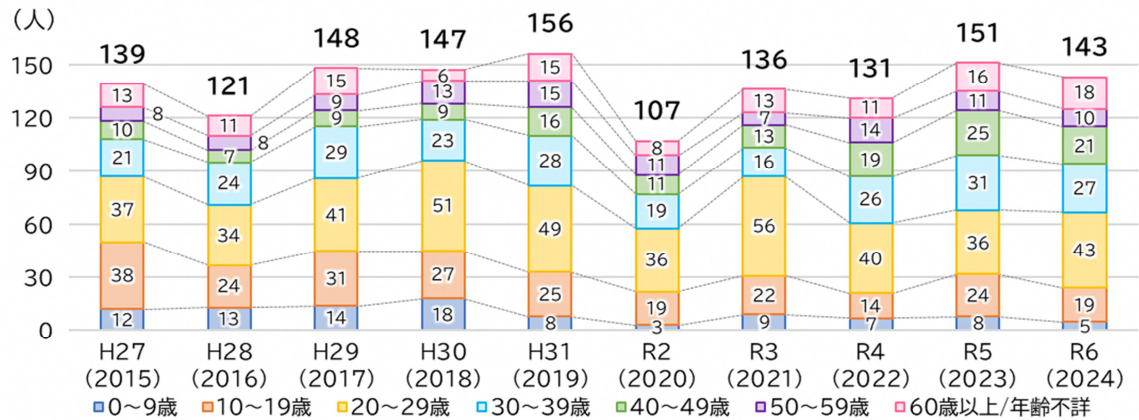
転出者の年代別・男女別の推移をみると、男性は「20～49歳」という働く世代の転出が増加傾向にあり、女性はどの年代においても縮小傾向にあります。

■転出者数の推移（総数）



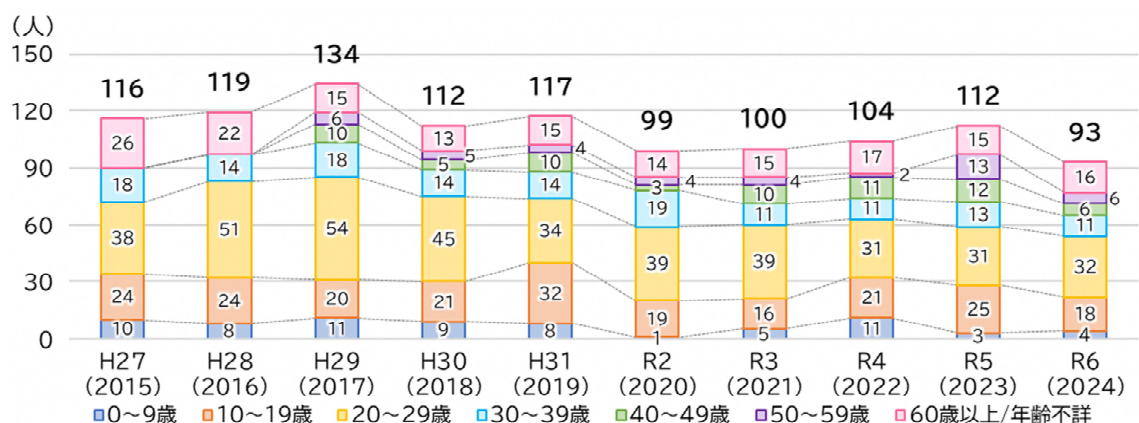
出典：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」

■転出者数の推移（男性）



出典：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」

■転出者数の推移（女性）

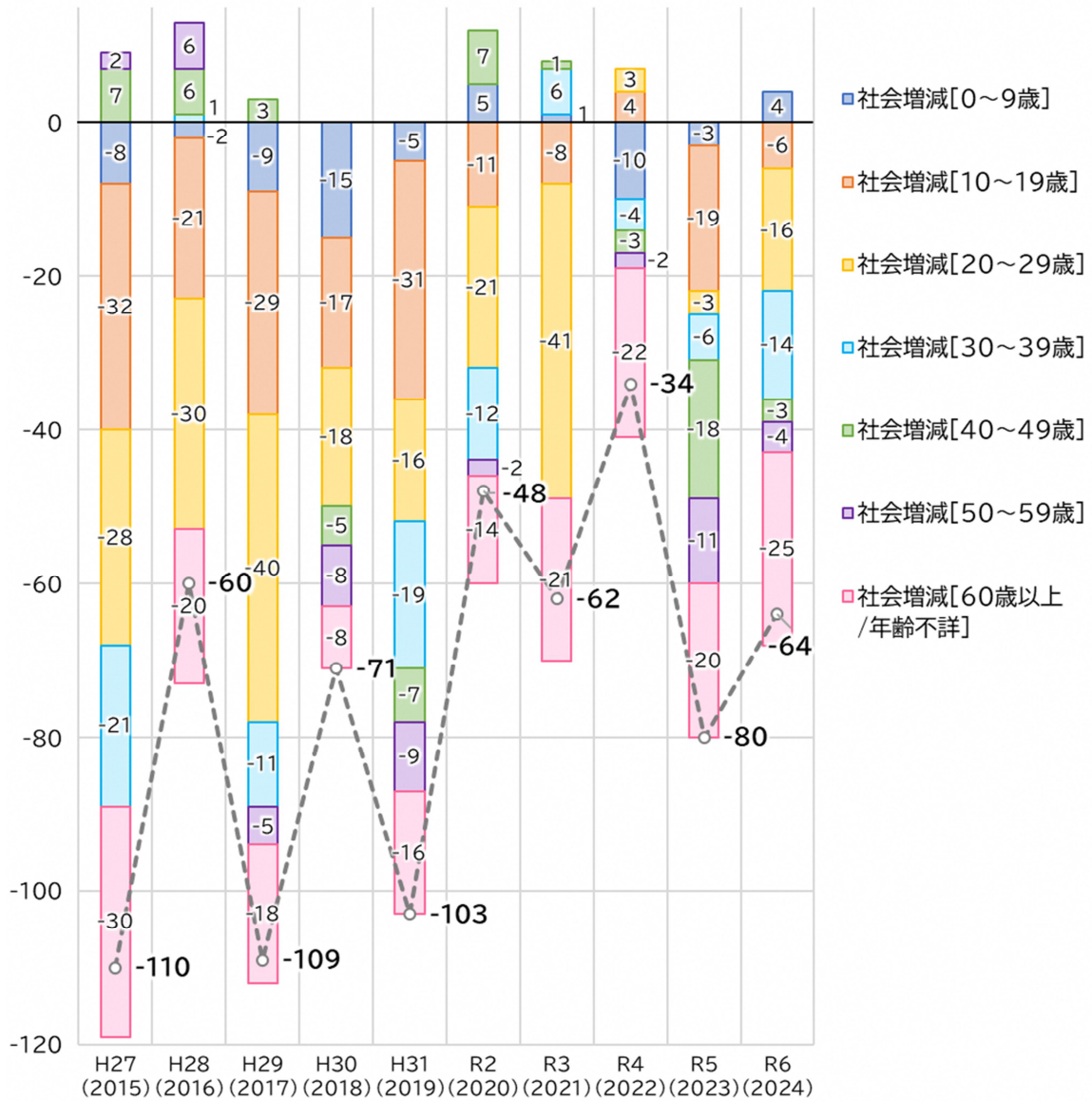


出典：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」

[参考] 社会増減の年代別の推移の整理

社会増減の年代別の推移をみると、これまで社会増にあった年代である「40～49歳」や「50～59歳」が社会減に転じており、働く世代や地域コミュニティの担い手となる年代の流出が加速している傾向にあります。

■社会増減の年代別の推移
(人)



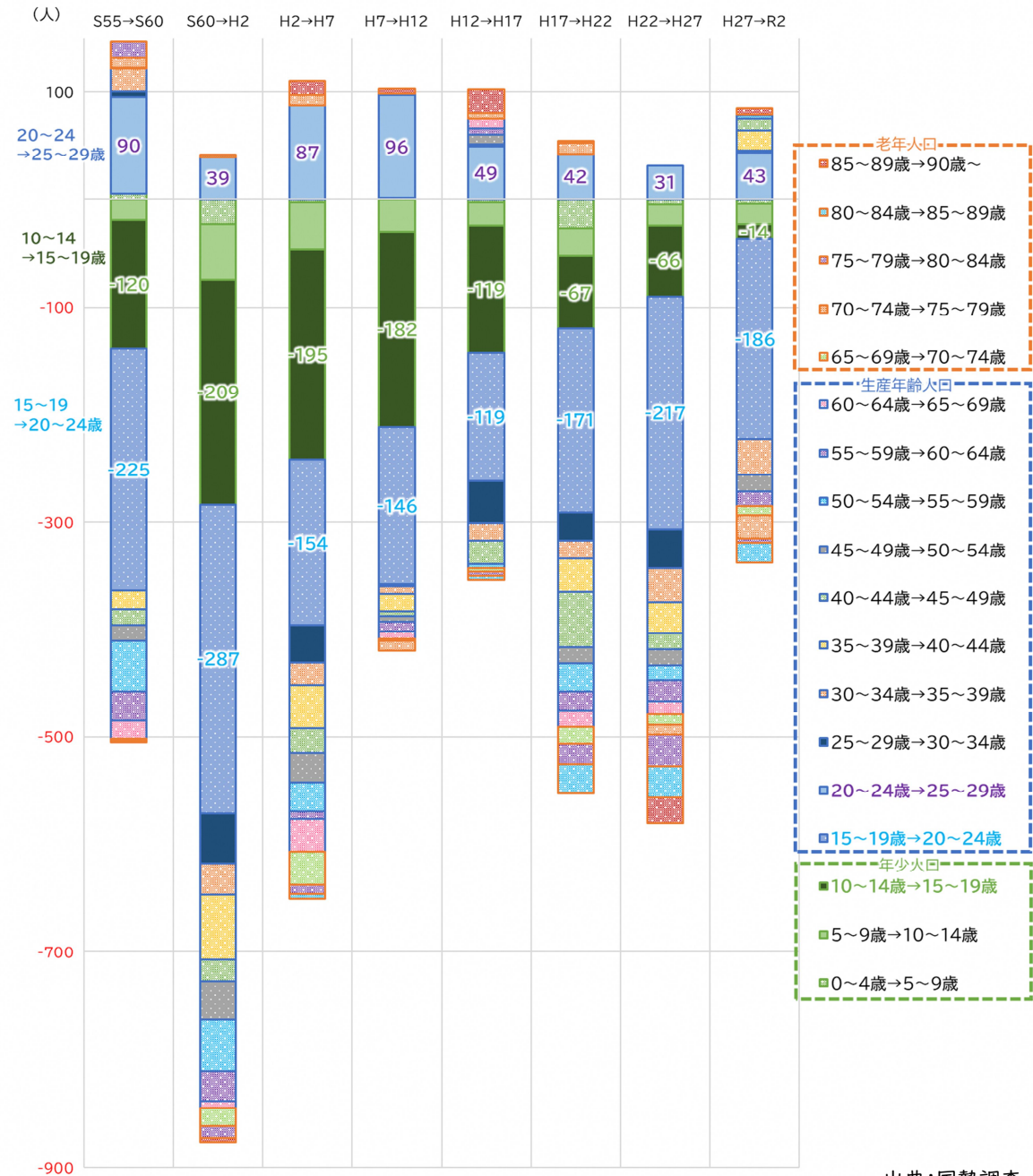
出典：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」

(2) 人口移動に関する現状

① 年齢階級別人口移動の状況

「15～19歳が20～24歳」になる5年間と「10～14歳が15～19歳」になる5年間の転出超過数に占める割合が高くなっており、学卒者の進学や就職等による転出が要因と考えられます。一方、「20～24歳が25～29歳」になる5年間が転入超過に占める割合が高くなっており、大学等を卒業後に一旦町外に就職した後、地元に戻る人が多いと予想されますが、その割合も減少傾向にあることから転入超過が少なくなっています。

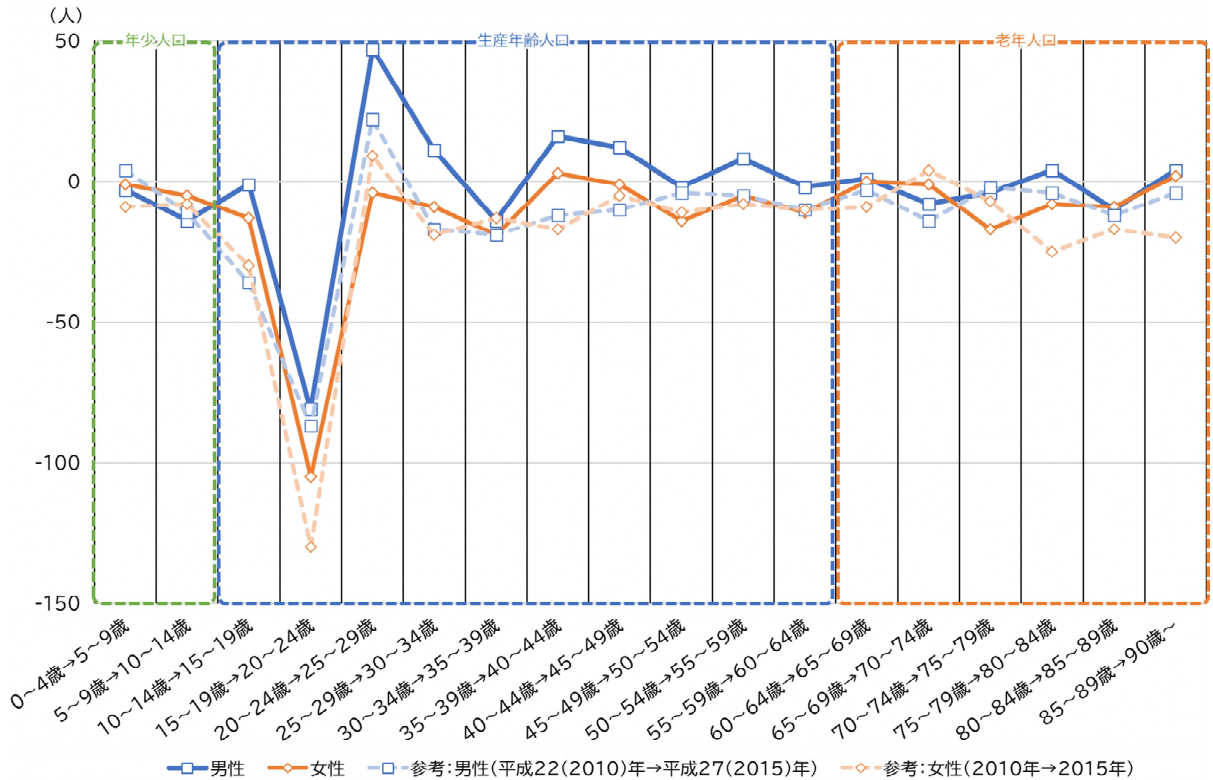
■ 年齢階級別人口移動の推移



②男女別・年齢階級別人口移動の状況

平成27(2015)年から令和2(2020)年の5年間の人口移動をみると、若年層では男女とも同じ傾向がみられますが、年齢層が高くなると、男性よりも女性の方が減少する傾向が強い状況にあります。

■男女別・年齢階級別人口移動の状況



出典: 国勢調査

(3) 町民意識調査

本人ロビジョンの策定にあたり、町民の方々に対するアンケート調査、ヒアリング調査等を実施し、人口推計に関連する考え方を整理しました。

① 中学生アンケート調査結果（一部抜粋）

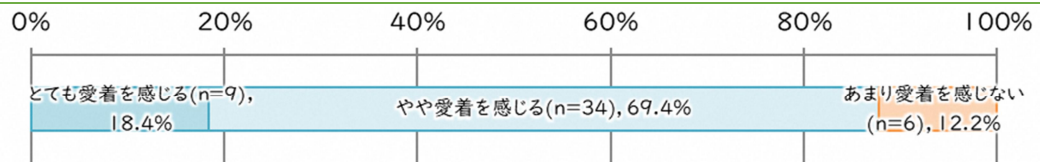
▶ アンケート調査概要

| | | | |
|------|---------------|------|----------------|
| 調査対象 | 小国中学校2年生(55名) | 調査方法 | 直接配布回収により実施 |
| 調査期間 | 令和7年5月27日(火) | 回収数 | 49票(回収率:89.1%) |

▶ アンケート調査結果

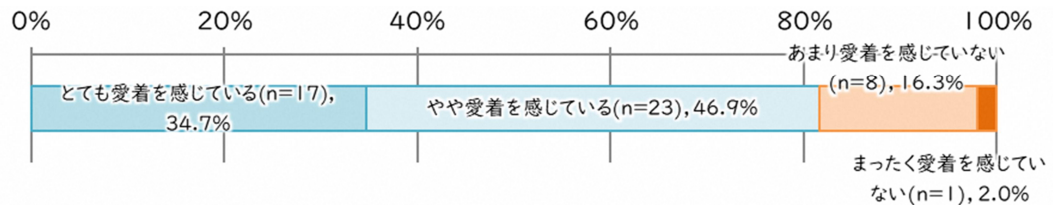
【小国町への愛着の有無】

▶ 中学生の愛着の有無は、8割以上が愛着を感じており、愛着を感じない層は約12%程度となっています。



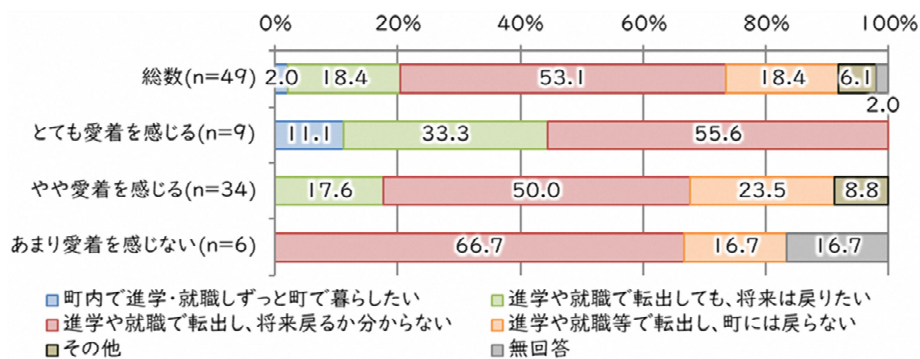
【中学生の保護者の小国町への愛着の有無】

▶ 自分の保護者が小国町に愛着を感じていると思うか聞いたところ、約8割以上が愛着を感じていると回答、中学生と比較すると、愛着を感じていないという回答が多くなっています。



【将来の定住意向（小国町への愛着の有無とのクロス集計）】

▶ 将来の定住意向と小国町への愛着度合いでのクロス集計では、愛着度合いが高くなると、定住意向が高くなる傾向にあります。



②高校生アンケート調査結果（一部抜粋）

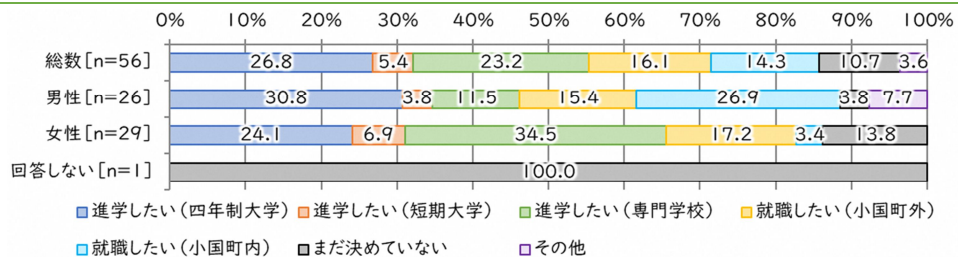
▶アンケート調査概要

| | |
|------|--|
| 調査対象 | ・小国高校（計63名）／・基督教独立学園（計59名） |
| 調査方法 | 小国高校はWEB 回答フォームにより、基督教独立学園は調査票（紙）を配布し、回収 |
| 回収数 | ・小国高校：56票（回収率：88.9%）／・基督教独立学園：51票（〃：86.4%） |

▶アンケート調査結果（小国高校）

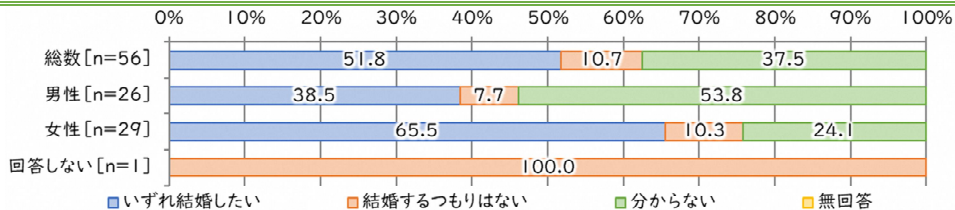
【卒業後の進路】

▶約55%が進学を希望しており、町外への転出が想定される他、町外での就職希望まで含めると、約71%が町外への転出が懸念されています。



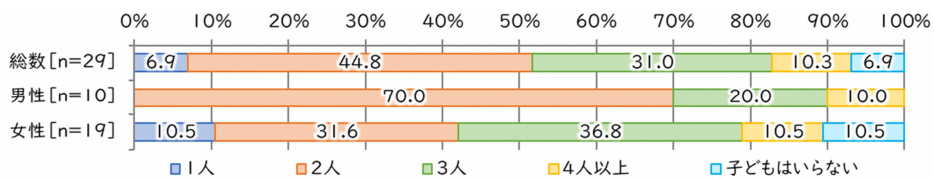
【将来の結婚希望】

▶約51%が結婚したいという希望を持っており、男性より女性の方が結婚を希望している割合が高くなっています。



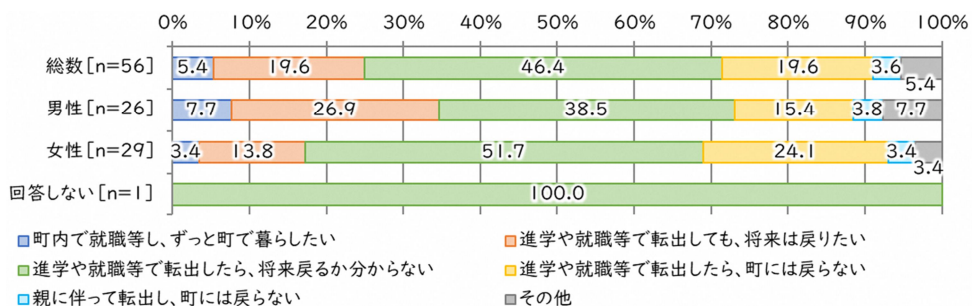
【将来の子どもの希望】

▶約93%が最低1人以上の子どもを持ちたいという希望があり、2人が約44%、3人が約31%となっており、男性よりも女性の方が多くの子どもを希望している傾向にあります。



【将来の定住意向】

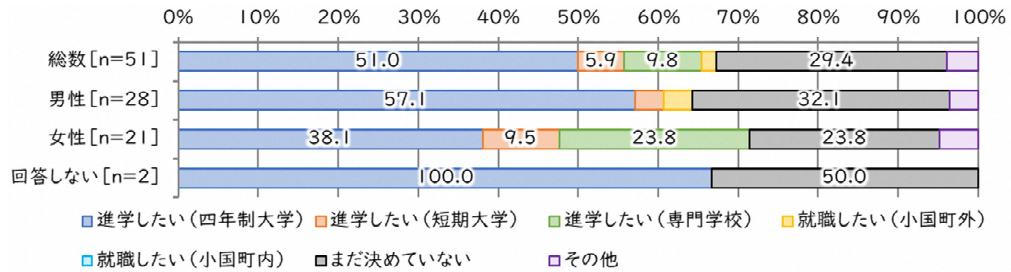
▶約25%が定住したいという意向（このまま住みたいもしくは将来は戻りたい）を示していますが、約46%が一度町外へ転出したら将来戻るか分からないと回答しています。



▶アンケート調査結果（基督教独立学園）

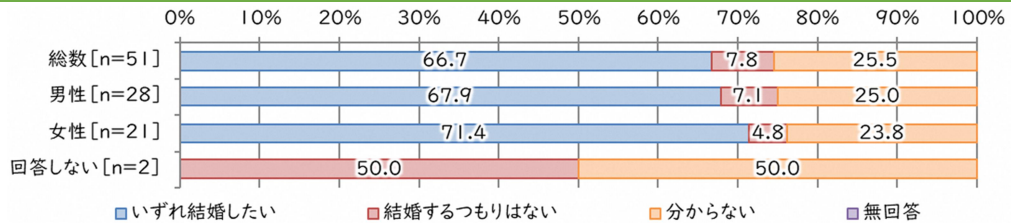
【卒業後の進路】

▶約66%が進学を希望しており、町外への転出が想定されますが、まだ決めていない学生も約29%存在します。



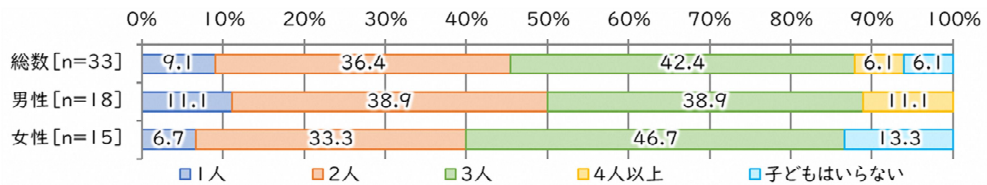
【将来の結婚希望】

▶約66%が結婚したいという希望を持っており、男女により大きな違いは見られません。



【将来の子どもの希望】

▶約93%が最低1人以上の子どもを持ちたいという希望があり、2人が約44%、3人が約31%となっており、男性よりも女性の方が多くの子どもを希望している傾向にあります。



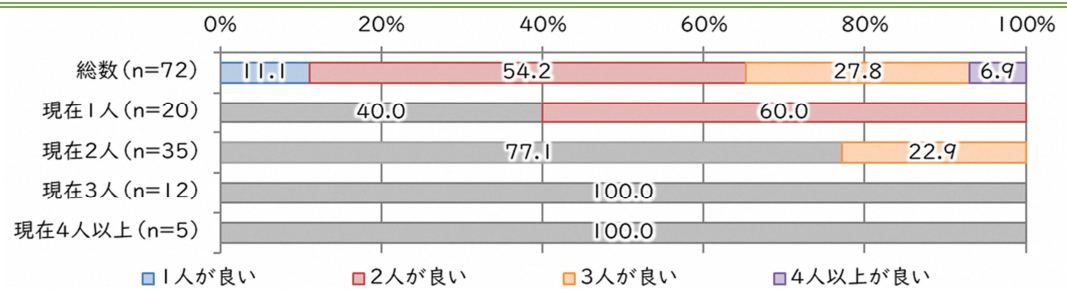
③子育て世代アンケート調査結果（一部抜粋）

▶アンケート調査概要

| | | | |
|------|-----------------------|------|-------------------------------------|
| 調査対象 | 子育て世代 (保育園・小学校保護者) | 調査方法 | 子育て世代が集まる会合において 概要を説明し、WEB 回答を依頼 |
| 調査期間 | 令和7年6月26日～ | 回収数 | 72票 |

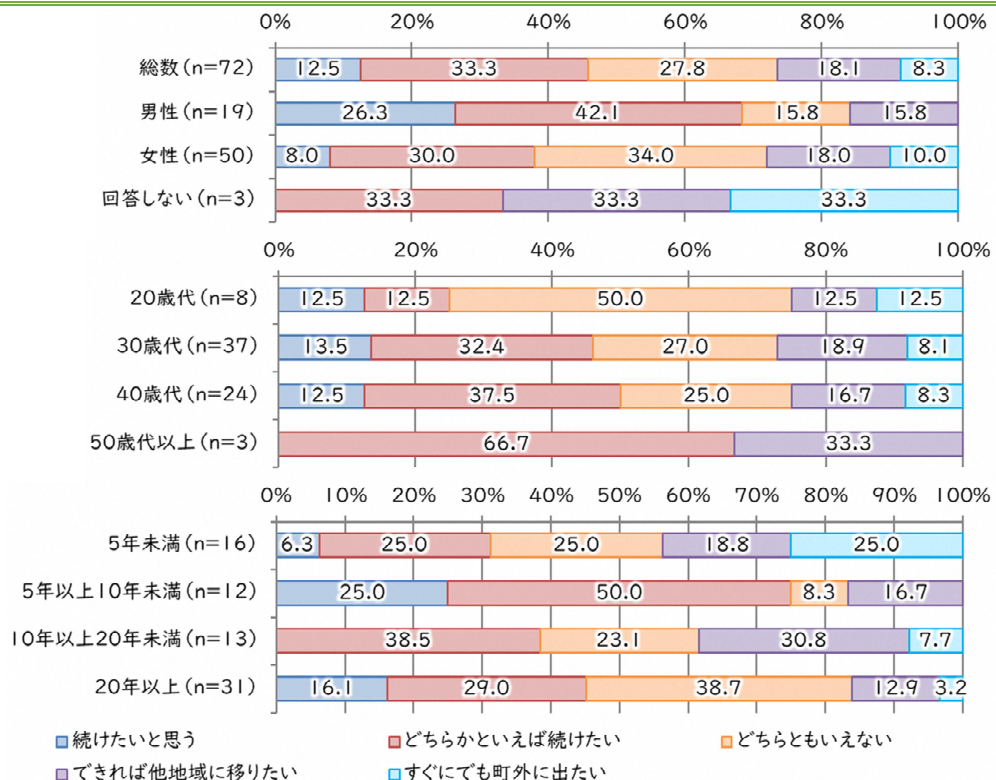
【希望する子ども数】

- ▶希望する子ども数は、2人が約54%と最も多くなっています。
- ▶現在の子どもの数と実際に希望する子どもの数をクロス集計した結果では、現在1人の子どものいる方は60%が2人目を希望しており、現在2人の子どものいる方は約22%が3人目を希望しており、多子世帯を望む方が多く見られます。



【小国町で子育てを続けていきたいかどうかの意向】

- ▶どちらかといえば続けたい方が約33%と最も多くなっており、次いでどちらともいえない方が約27%となっています。
- ▶性別では女性より男性の方が、継続意向が高くなっています。年代別では20歳代の方がどちらともいえない方が他年代よりも高くなっていますが、他の年代は約半数程度が継続意向を示しています。居住年数別では年数により偏りが見られ、5年以上10年未満の方の継続意向が高くなっています。

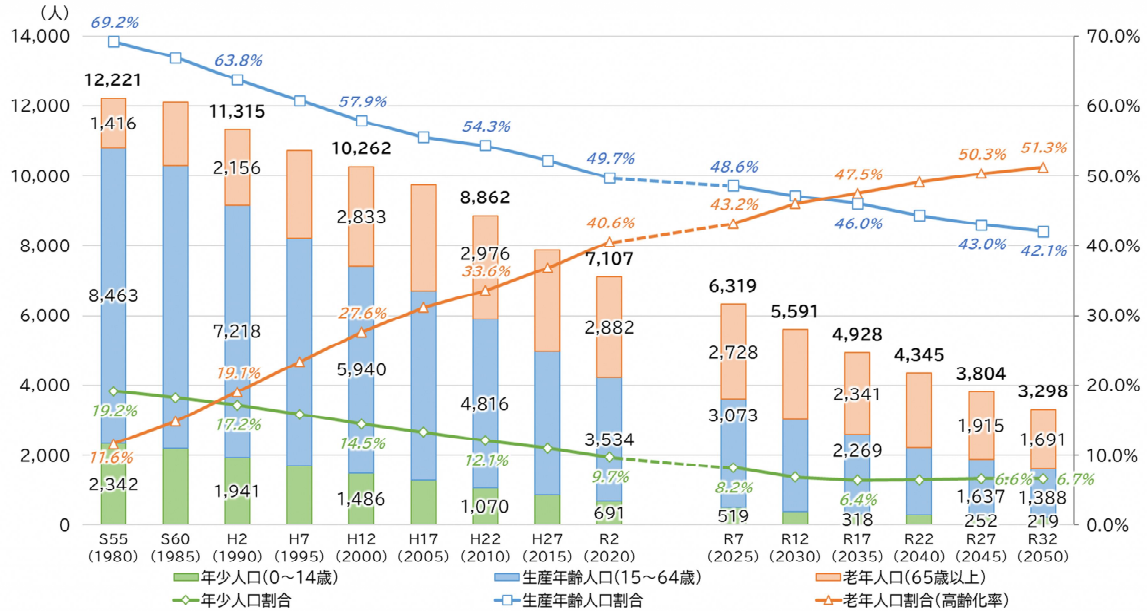


(4) 将来人口の推計

① 社人研による将来人口の推計

社人研による最新の推計では、令和32(2050)年には3,298人となっています。

■ 社人研による人口推計

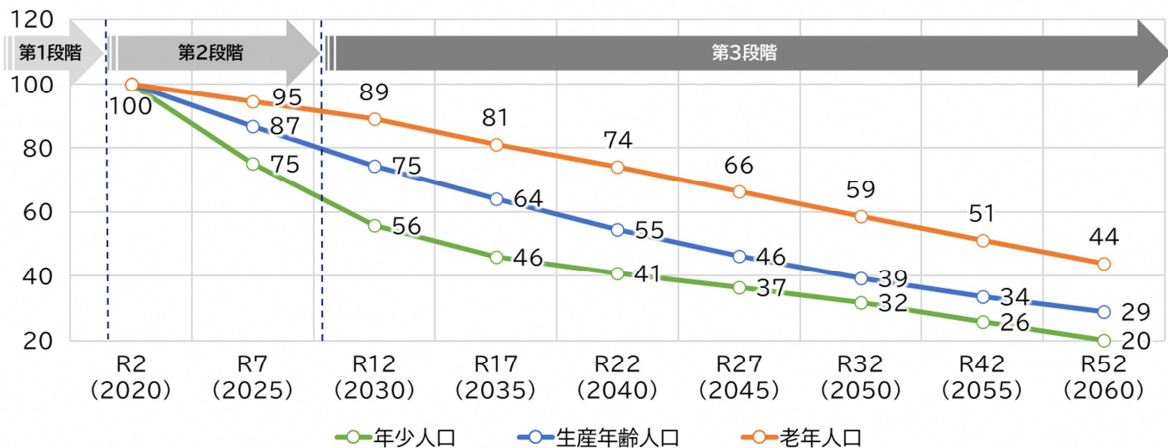


② 人口減少段階の分析

人口減少は、下記の3つの段階を経て進行するとされており、本町においてはすでに第1段階が終わり、第2段階に突入しています。

| 段階 | 状態 |
|------|--|
| 第1段階 | 老年人口(65歳以上人口)が増加し、生産年齢人口(15~64歳人口)及び年少人口(0~14歳人口)が減少する段階 |
| 第2段階 | 老年人口が維持・微減(減少率0%以上10%未満)し、生産年齢人口及び年少人口が減少する段階 |
| 第3段階 | 老年人口、生産年齢人口及び年少人口が減少する、人口減少の最終段階 |

■ 令和2(2020)年の人口を100とした場合の年齢3区分別将来人口の推移



(5) 将来人口に及ぼす自然増減と社会増減の影響度の分析

① 自然増減及び社会増減の影響度の分析

すでに高齢化が進行している自治体では、出生率が大幅に上昇しても出生数への影響は少ないということがあるように、人口は出生と移動により規定されますが、その影響度は各自治体の状況によって異なります。このため、社人研推計をベースに、以下の2つのシミュレーションを行い、本町の将来人口に及ぼす自然増減と社会増減の影響度を分析しました。

| シミュレーション | 仮定値 | 推計値 |
|-----------|---|--------|
| シミュレーション1 | 合計特殊出生率が令和32(2050)年に、2.07(人口置換水準の近似値)まで上昇した場合の人口 | 3,548人 |
| シミュレーション2 | 合計特殊出生率が令和32(2050)年に2.07まで上昇し、かつ移動(純移動率)がゼロ(均衡)で推移した場合の人口 | 4,678人 |

② 影響度の分析結果

基準推計(社人研推計準拠)とシミュレーション1、シミュレーション2の推計値から、将来人口における自然増減(出生・死亡)と社会増減(移動人口)の令和32(2050)年における影響度を計算しました。

| 分類 | 計算方法 | 影響度 |
|----------|--|-----|
| 自然増減の影響度 | ▶ 自然増減の影響度 $\text{=シミュレーション1の総人口/社人研推計準拠の総人口}$ =107.6\% | 3 |
| 社会増減の影響度 | ▶ 社会増減の影響度 $\text{=シミュレーション2の総人口/シミュレーション1の総人口}$ =131.8\% | 5 |

影響度の計算結果は、自然増減の影響度は「3」、社会増減の影響度は「5」となりました。本町においては、将来人口に及ぼす影響度合いは、自然増減より社会増減が大きいといえます。

③ 影響度の分析結果の活用

影響度の分析は、今後の将来人口を定めるにあたり、将来人口に影響を及ぼす要因を「自然増減(出生・死亡)」と「社会増減(転入・転出)」に分けて分析し、現状の人口動態を明らかにしたものです。こうした分析は、現状の課題や傾向を把握するためのものであり、この結果を踏まえて、どのように将来人口の推計に反映させるかは、総合計画及び総合戦略等の方針や将来像に応じて、定めていくこととなります。

3. 人口の将来展望

(1) 小国町としての考え方

① 本町が有する特徴

本町の人口は、今後も減少が続くことが予測されており、人口増加に転じることは、かなり厳しい状況となっています。

その一方で、本町がこれまで取り組んできた様々な施策の効果が表れている状況として、下記のとおり、人口減少の抑制に向けたポジティブな特徴も見受けられます。

特徴① 総人口が社人研の想定よりも緩やかに減少していること

総人口の推移は、平成30(2018)年に社人研が示した推計値と実績値を比較すると、推計値よりも減少が抑えられて推移しているうえに、平成30(2018)年に社人研が示した推計値と令和5(2023)年に社人研が示した推計値を比較しても上振れしていることから、想定よりも人口減少が抑制されていると推測できます。

特徴② 若い世代の出生率が高いこと

本町における母の年齢(年齢階級)別出生率は、全国的な傾向と異なる部分があり、全国的には晩婚化等に伴って「30～34歳」の出生率が「25～29歳」の出生率より高い傾向にありますが、本町は逆の傾向にあります。つまり、比較的若い世代の出生率が高い傾向にあることに加え、高校生へのアンケート調査の結果では、将来希望する子どもの数が2人や3人という回答が多くなっていること、子育て世代へのアンケート調査でも、同様に多子世帯を望む声が多くなっていることから、その傾向が続いていくポテンシャルを有しています。

特徴③ 社会減少数がやや縮小傾向にあること

本町の転入者数は平成20(2008)年頃からほぼ同じ水準で推移しており、令和5(2023)年の転入者数は187人となっています。転出者数は減少傾向にありますが、本町の人口が減少しているため、それに比例して減少しているものと推測でき、これらの状況から社会減少数はやや縮小傾向にあります。

また、年齢別の移動では、過去にマイナスだった年齢層である30歳代や40歳代以上といった年齢層がプラスに転じており、自然増減・社会増減の双方の対策に寄与する傾向になっています。

特徴④ 町民の愛着度合いが高いこと

中学生へのアンケート調査では、中学生もその親も約80%以上が町への愛着を感じています。また、同じく中学生及び高校生アンケート調査における将来の定住意向については、分からないとする回答が多いものの、町を出ていきたいと決めている割合は約20%程度となっています。

また、子育て世代アンケート調査における小国町での継続的な子育て意向でも、分からないとする回答が多いものの、町を出ていきたいと決めている割合は、同じく約20%程度となっています。

②人口減少社会における視点

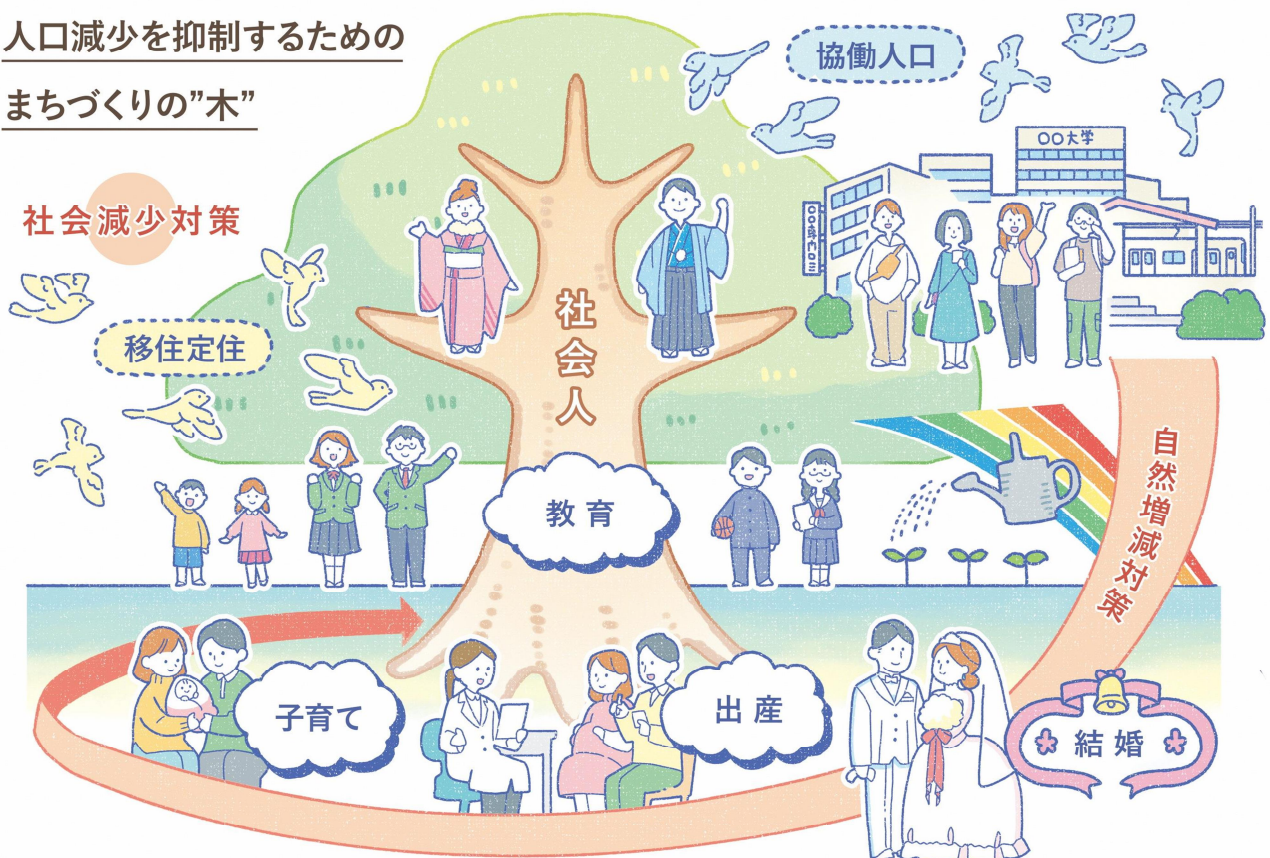
①本町が有する特徴を踏まえて、人口減少をできる限り“抑制”していくことを念頭に置き、人口増減に係る自然増減及び社会増減について、以下に示す視点に基づき、短期・中期・長期という3つの時間軸ごとの定性的な目標を定めます。

【人口減少を抑制するための基本的な視点】

視点1 “自然増減対策”⇒町を持続的に維持していくための“根っこ”であり、現状と同等もしくはそれ以上の継続的な支援を実施しながら、結婚や子育て、教育等に係る環境を整備していく。

視点2 “社会増減対策”⇒町を持続的に維持していくための“枝葉の広がり”にとらえ、根っこをしっかり守りつつ、これまで以上に協働人口の創出、移住定住の促進を図ることで枝葉を広げていく。

人口減少を抑制するための まちづくりの“木”



(2) 人口減少の抑制に向けた目標

人口増減に係る自然増減及び社会増減の視点に基づき、短期的・中期的・長期的の3つの時間軸ごとの定性的な目標を定めます。

○短期的目標

目標年次: 令和12(2030)年

※主に「小国町総合戦略」での取組みが想定されることから、その計画期間に合わせた目標年次を設定

目標①: 町外流出の抑制と人口流入を促しながら、社会減少を縮小し、人口減少の抑制を行う。

目標②: 中期的・長期的目標の基盤を整える期間としての側面を有しており、特に生産年齢人口割合の減少を社人研の推計値より抑えることに力点を置くことが重要であることから、若年層の転入促進を図り、社会増減対策に主眼を置く。

○中期的目標

目標年次: 令和17(2035)年

※主に「小国町総合計画」での取組みが想定されることから、その計画期間に合わせた目標年次を設定

目標①: 短期的目標の達成により、人口減少抑制の基盤が構築されたことを踏まえ、更なる人口流出の抑制と人口流入を促し、転出者数より転入者数が多い状態である転入超過を目指す。

目標②: 短期的目標の達成により、特に若い世代の町外流出が抑制され、流入が加速しているため、長期的目標の達成に向けた基盤を構築するために、自然減少対策に主眼を置く。

○長期的目標

目標年次: 令和22(2040)年

目標①: 短期的・中期的目標の取組みにより、さらに将来的に人口4,000人規模の維持を目指すための基盤となる人口構造への転換を目指す。

目標②: 年少人口割合が現在と同等もしくは増加、生産年齢人口割合が現在より増加、老年人口割合が現在と同等もしくは減少し、人口構造の若返りを目指す。

(3) 将来人口の展望

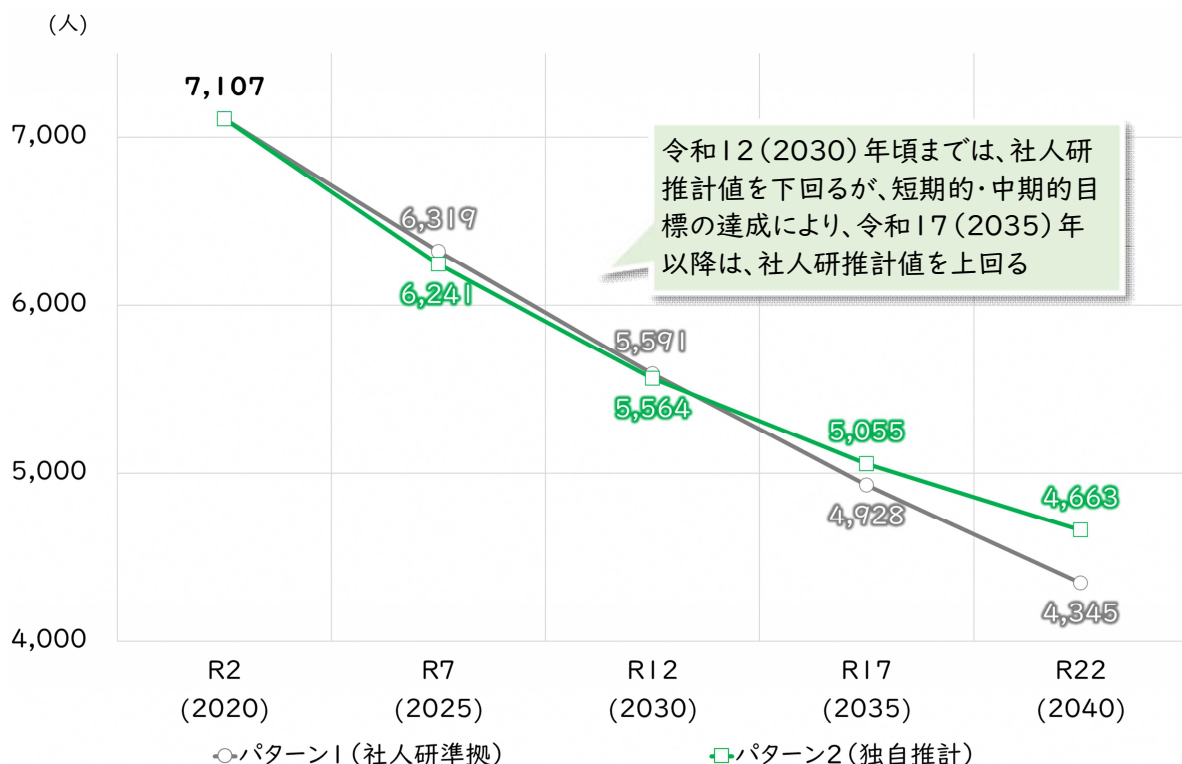
本町が掲げた短期・中期・長期的目標をもとに、短期的・中期的目標を達成した場合の具体的な推計を行いました。

本町の現状や町民意識調査等の結果を踏まえて、合計特殊出生率（自然動態の出生に関する仮定）と純移動率（社会動態に関する仮定）について、それぞれに仮定値を設定し、本町独自の推計パターンで将来人口のシミュレーションを行いました。

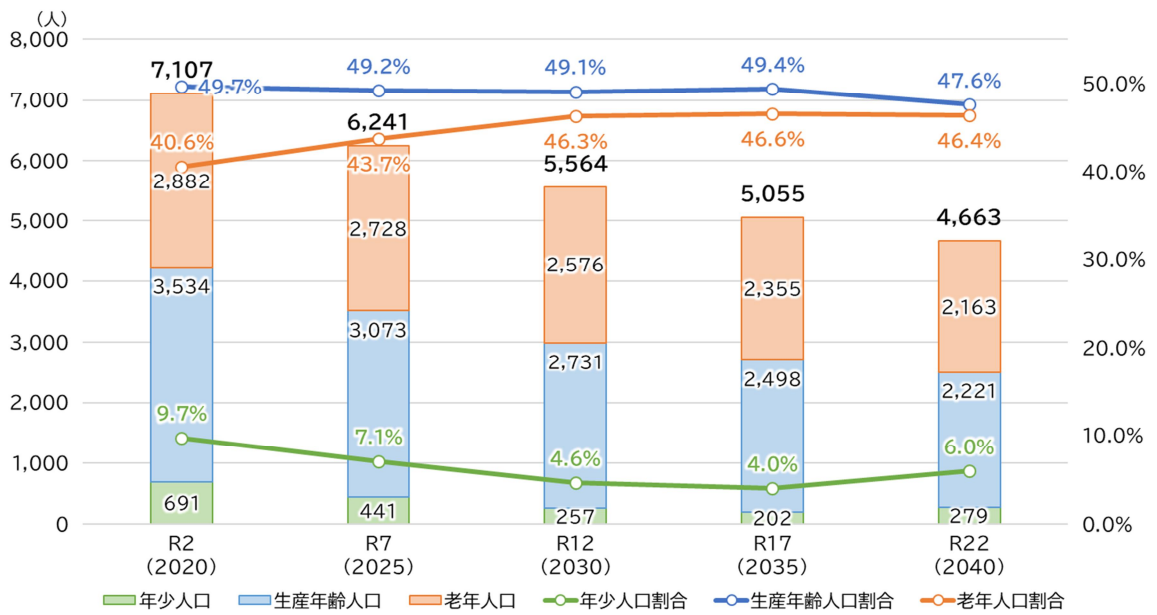
■ 推計パターンとその仮定値の設定条件

| パターン | 自然増減 | 社会増減 |
|------------------|---|--|
| パターン1 (社人研準拠) | ▶社人研が推計した合計特殊出生率 | ▶社人研が推計した純移動率 |
| パターン2 (独自推計) | ▶母の年齢階級(5歳階級)別出生率を使用して、合計特殊出生率を算出 ▶平成23(2011)年から令和4(2022)年の年齢階級別出生率の平均値を算出した上で、令和22(2040)年までに、その平均値を達成すると仮定 ▶令和7(2025)年から令和22(2040)年までに、その平均値を達成するように一定の割合で増加していくと仮定し、以降は、その平均値のまま推移していくと仮定 | ▶年齢層ごとに、移動の考え方を設定 ▶生産年齢人口に着目することから、65歳以上の年齢層の移動率は、社人研推計に準拠 ▶令和17(2035年)に純移動率がマイナスの年齢層は1/3に減少し、プラスの年齢層は5%増加すると仮定 ▶令和40(2040)年に純移動率がマイナスの年齢層は均衡し、プラスの年齢層は10%増加すると仮定 |

■ 推計の結果



■ パターン2 (独自推計) における年齢3区分別人口の推移



(4) 「協働人口」の拡大と今後のまちづくりの方向

① 「協働人口」とは

本町では、「町に住む人」を土台にしつつ、小国町や町民に対して想い(関心・共感)を寄せ、町民や行政と協働してまちづくりに関わる人々を「協働人口」として広く捉え、ともにまちづくりを進めてきました。現行ビジョンにおいては、令和元(2019)年に約2万7千人の協働人口が町に関わっていると整理しています。

本ビジョンでは、協働人口に含まれる「交流人口」・「関係人口」をあらためて整理し、細分化して考えていくことで、明確なターゲットと戦略を描きます。

●「交流人口」

…観光やイベント、通勤通学などで実際に来る人。

“来る”という視点を踏まえると、次の2つに分類することができます。

A:受動的に来る層

⇒道の駅への立ち寄りや用事があるて来る人

※交流人口(来る人)の入口となる方々であり、町の魅力を発信することで、再来訪につなげる

C:能動的に来る層

⇒観光やイベントで訪れる人

※Aよりも関わりが深い層であり、定期的な来訪を促すことで、D:まちづくりに積極的に参画する層への転換を進める

●「関係人口」

…町出身者、地域行事への参加者、ボランティア、ふるさと納税者、EC購入などでつながる人。

“つながり”という視点を踏まえると、次の2つに分類することができます。

B:遠くから応援をする層

⇒町出身者、ふるさと納税や定期的なEC購入で応援してくれる人など

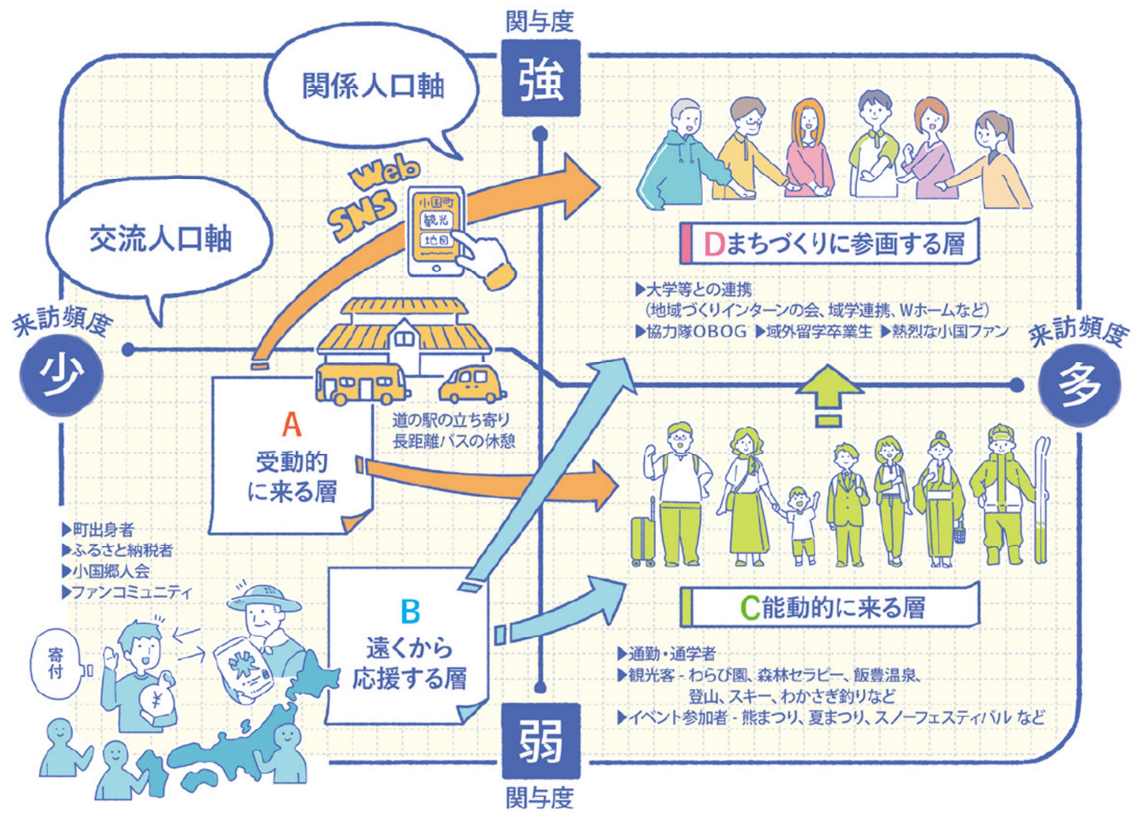
※来訪がなくても、気持ちと地域資源でつながる層であり、関係を維持しつつ来訪のきっかけを作る

D:まちづくりに積極的に参画する層

⇒町外から通勤・通学する人、地域行事や町の事業への協力、企業や大学等との連携事業への参加など、まちづくりに積極的に参画する人

※来訪頻度が高く、関与の度合いが強い

② 「協働人口」のイメージ図



③ 「住む人」と「協働人口」がともに創る未来のまち

ターゲットに応じた戦略をたてて協働人口の創出・拡大を図り、さらに関わりの度合いを深めていくことで、「住む人」と「協働人口」がともに持続可能な未来の小国町を創ることを目指します。

令和8(2026)～令和22(2040)年度

小国町人口ビジョン

策定:令和7年10月(2025.10)

発行:山形県小国町

〒999-1363 山形県西置賜郡小国町大字小国小坂町 2-70

TEL:0238-62-2264 FAX:0238-62-5464

URL:<https://www.town.oguni.yamagata.jp/>
